

るに過ぎず、之が爲めに何等の用爲さるも、能はざりて一般公衆の見よりして之を云へば

一切の努力、技術、費用、精神を擲せしめられたるものなり。其備と爲すに至らる人の精力は斯くの如くにして全く空想に附せらるゝなれど、長き経験の後英國の統治者は遂に政府者も、の間に於て何事をも發意計案するも能はず、輿論の力を新聞の報道とに壓迫され初めて運動するものなると信じて、至らん斯の如くして我等は進歩時代の既に中腹にまで達し得たるものなり。

エッシャー氏の編纂に依れば軍事歴史編纂の任は一に海軍事務長附屬官吏の手中に埋没せしめらるゝものなり。是れ誠に諱避の位置に居るものなりと爲ざるべからず即ち土間の後席に屏座するものなりとすべし之が職責を有する屬吏は軍事教育、軍事編成、軍隊の取扱い、軍事教練等に關する一切の著作物を出版するの任に當り且つ中央本部及び各地方に存する軍用文庫保管の任に當り見るべからず是れ焉ぞ我等の夢想する帝國艦隊本部の歴史部たるを得んや實に他に其主要なる任務を有する末流軍人の末流附屬事務たるに過ぎざるなり。

(下所傳)

一月十四日、廿二日、 ○タイムス日露

(五月十日所傳つゝ)

歴史研究の必要

時勢に後れざる諸大國の間に行はるゝ戦然近世式なる設備中に於て參謀本部歴史部の如く他の諸國に其功績の充分認知されたるものあるなし。最近數年中佛獨及の其他の諸國に於て造られし少なからざる其貴重の成作に對して我等多く此歴史部に負ふ所あり。此等は文學上及び歴史上に少々からざる功勳あり其のみを以てしも既に出でるが上に尚ほ之を造れる國の陸軍及び國民に對して教育上、に二倍の價値を有せり。自他を知るよ。即ち戦争を防止せしむるに最も効力あるものにして今生存せる人の一生間に於はれたる戦争は始て一として相互の實力を知る能はざりし交戦者の間に生じたるにわざるはなし。殊に一般には智力上に於てか又は其他に於て殆ど野蠻に近き國を少なくも其一方に有せり。普魯西國の勝利に於て軍事的智識の新に西歐羅巴に傳播し盡く此國を探索せざるべからずして而も結果

より以戰爭の時代は即ち終止せり。此智識は海峽英吉利に至りて止まり。ヴィナーラ河(ボーランドより獨逸の西部地方を縱貫するもの)に至りて止ざる之の止まる。同時に伊和の天使また之が境を越えて通ざるなんぞ。ヒ其國民族に事と武器に訴へたるに依りて爲めに受けたる苦痛は眞に之を其心に銘せざるものなし。英國は勿論依然として尙ほ諸國たるるなし。最近數年中佛獨及の其他の諸國に於て造られし少なからざる其貴重の成作に對して我等多く此歴史部に負ふ所あり。此等は文學上及び歴史上に少々からざる功勳あり其のみを以てしも既に出でるが上に尚ほ之を造れる國の陸軍及び國民に對して教育上、に二倍の價値を有せり。自他を知る能はざりし交戦者の間に生じたるにわざるはなし。殊に一般には智力上に於てか又は其他に於て殆ど野蠻に近き國を少なくも其一方に有せり。普魯西國の勝利に於て軍事的智識の新に西歐羅巴に傳播し盡く此國を探索せざるべからずして而も結果

より以戰爭の時代は即ち終止せり。此智識は海峽英吉利に至りて止まり。ヴィナーラ河(ボーランドより獨逸の西部地方を縱貫するもの)に至りて止ざる之の止まる。同時に伊和の天使また之が境を越えて通ざるなんぞ。

部は宜しく近時第一回の大戦役たる本総東に進行中の間、軍事部にて先づ其手初めと爲すべし。當に設立され適當に組織されたる歴史部の緊要なるを感するもの曾に我陸軍のみにはあらず又實に我海軍のみにはあらず又實に我公人のみにも非ざるなり。地球上に普く散布する我陸軍及び艦隊の専門的文庫は實に我邦に取りて云ふべからざる不名誉の状態にあり而も英國最大諸艦隊の長くして且つ波瀾ゆきなり。當に此等の社會は漸くにして丁年の域に達せんとす。此等の明に其母國市民との關係に於て苟りにも外國人または異境人の名を加へべきものありとせば之を加へしむるに至りたるもの其責一に母國にありとせざるべからず我等は曾て此等殖民地に對し彼等の其存在を保てる所以及び外國領土より其安寧を持せる所以は畢竟その天運に懸り英國海軍の見

其何人たるに關せず海上帝國の必要に應ぜる。歴史部の創設と其名を關聯せしむるもとを得べき政治家は即ち永續的市府と建設し得たる其愛兒は自由を與へんとして我等及び我等の祖先の流したる一切の血涙にして若し海外の民の知能未だ成熟の域に達する所と能はざるべからざる結果ならざるべからざるなり。

一月十九日、廿三日、
○タイムス日露

(九月十三日軍事編纂所傳)

○戦争批評 (百二十一)

本部は自ら英吉利民族大戰役の描寫を以て其目的とすべし。然れども外國の歴史部また我が南阿戰事に其研究を加へ我等の巨費を投じて得たる教訓を彼等また學び盡くさんみとを欲して之を嘗覈しなるが如く我等の歴史

り然るも我等の殖民地は生れながらにして既

軍事的助言に其身を假したるの罪に坐せり軍事思想界に於ける柏林の勢力は一として東西に取り不利の因たらざりしはなし露西亞帝國たるもの此方面より出でたる其爲にする所める一切の怨懣を拒絕し獨逸軍人及び論客等が其有せる街へるよりも自家に於て有するより更に深き絶東に開する智識を基礎とし曾て獨逸の助力を借るふとなく露國の精神と露國の傳説とに従ひ其作戰計畫を立したる全般の形勢に對する其全然虛偽なりし観測を以て寧ろ可なりしとす開戰前數週目の間に發行されたる獨逸新聞紙の舊紙面を覆闇して熟讀せよ自ら畜生の感を禁がるみど能はざるべし此等の觀測は甚だしき無識の結果に成り作られたるか或は政略上立せられたるものならざるべからず露國は之が觀測によりて大なる刺激を受け英國新聞紙の警備を嚴く排斥し終りて専ら其の自ら其採用したる拙策にのみ固執せり制端破裂するに至り至大的の信用ある獨逸軍事界の泰斗は滿洲軍隊の増兵力を計算して其數字を發表したるものとあり之が計算若し果して正確たりと得ば今日頃に於けるタロバトキン將軍の野戰軍隊四十萬人に達したらざるべからず我等當時音を發してヨリテ

ール・ヴァン・ヘンツラット（軍事週報）既發行
日露戰爭批評第一卷第十五論（ノルマニ）の計算聊も
其價值を辯せり蓋し其計算明に獨學的
練習にして甚多の重要な算子を承認する
となく立したるものなるを以てなりし
第一回敗戦の後露國新聞紙は此敗戦の理由解
すべからずと爲し露國の計策は獨逸の觀測に
従ひ立せられたるものにして戰爭技術に關す
る獨逸専門家の鄙底なる諺語を得たるものな
り然るに尙ほ其結果斯くの如きものなり云々^ハ
との言を爲せり凡そ此言の如く氣の毒なるも
の世に存せざるべし要するに獨逸の軍事評論
いま何等實戰の經驗を有せざるものなし手に落
ち之より出づる助言の如く盲目にして且つ危
険なる指導あらざるの實未だ承認さるし能は
ざりしなり
露國の威名に加へられたる此傳説に對して獨
逸は果して如何の實驗を之に與へんと欲する
ものなりや大山必ず毀滅されるべしとの事を豫
言したる獨逸の神託に對しては獨逸其頗る不
精確なりし豫表を如何にして辯解せんとする
や問題の此一面を審理する亦一の趣味ある研究
ならずとせずナチオナル・ツアイツィングの
様に觸れて獨逸政府の見解を言明するものな
ざりしなり
尙ほ再び數月前に溯りて獨逸の試みたる其賢
明なる忠言なるものお察せよ其脚が異なれる
光明の下にゐるを發見せん去る二月般の初
めて授せられたる時ナチオナル・ツアイツィン
グの憚るふとなくして言明したる深き慰安の
き鬼貧は之に依りて漸く移るしを得たりと
云ふにありし今は怖るべき惡夢に纏縛さるし
ものを以て即ち露國なりとす獨逸の機關紙は
即ち其深き慰安の事實となりて現れ來たるを
指示するに誤らざりしものなりとすべし
曾て俄英の兩國その相互を分つ所以のもの
である

ダムスの日本 戦争批評（百二十一）

11

りて能く之を協定するふとを得べく發見するや。是に於てか即ちビスマルク流の政略は復活し來たれり獨逸新聞紙（ナチオナル・ツアーリング）の如く之が事實に通じたるものあらざりし佛國の佛英協約に依りて得たる純軍事的利益は頗る大なり佛國は海上の自由を把握するふとなくして未だ曾て歐洲に其有利なる戰争を行ひ得べき希望を有するものにあらず然るに英國などに與和を結し得ば佛國は直に此海上の自由を確持するふとを得べし其帝國軍隊をして遂に一敗地に塗れしめたる當時佛國の普魯西に對し若く長期に亘り其愛國的大角逐を繼續し得たるもの實は亦海上に其自由を制し得たるが爲めなりしとす戰後に行はれたる調査會の報告各紙面皆ふの事實を明にせざるはなし英伊兩國と其蓄資を温め得たるが爲めに伏りて今佛國の軍事的形勢は著しく改善せり佛國の動員計畫に依れば其海岸防禦に配置さるべき兵二十萬人あり此大部分は遂に移して他に用ふるふとを得べく殖民地及び其屬國に存する佛國軍隊十萬を算す是れ亦いま用ふるこ甚へたる兵と、工事等の手作業の手

軍事的助言に其耳を傾したるの罪に坐せり。軍事境界に於ける柏林の勢力は一として、露西亞帝國たるもの此方面より出でたる其爲にする所むる一切の機運を相続し偏遠軍人及び諭客等が其有せらる街へるより自家に於て有するかと更に深き絶東に開する御籠を基礎としたて獨逸の助力を借るのみなく露國の精神と露國の傳説とに従ひ其作戦計畫を立したるを以て寧ろ可なりしどす開闢前號邊目的間に發行されたる獨逸新聞紙の舊紙面を覆闇して全般の形勢に對する其全然虛偽なりし観測を熟讀せよ。自ら奇異の感を抱かざる能はずべし。此等の觀測は甚だしき無識の結果に表り作られたるか哉は政略上立せらるべきものならざるべからず。露國は之が觀測によりて大なる刺激を受け、英國新聞紙の警告を雖く排斥し終りて専ら其の自ら其採用したる拙策にのみ固執せり。船端破壊するに至り至大の信用ある獨逸軍界の泰斗は滿洲軍隊の増兵力を計算して其數字を發表したるものあり之が計算著し果して正確たりしを得ば今日頃に於けるクロバトキン將軍の野戰軍隊四十萬人に達したるべからず我等當時音を發してヨリテ

一、ルヴォツヘンツラット（軍事週報）既發行
日露戰爭批評第一卷第十五論三の計算聊も
其價值を辯せり蓋し其計算明に純學校的
練習にして巨多の重要な風子を承認するみ
となく立したるものなるを以てなりし
第一回敗戦の後露國新聞紙は此敗戦の理由解
すべからずと爲し露國の計策は獨逸の觀測に
従ひ立せられたるものにして戰爭技術に關す
る獨逸專門家の鄭重なる諒説を得たるものな
り然るに尙ほ其結果斯くの如きものなり云々
との言を爲せり凡そ此言の如く氣の毒なるも
の世に存せざるべし要するに獨逸の軍事評論
いま何等實戦の經驗を有せざるもの乎に落
ち之より出づる助言の如く盲目にして且つ危
険なる指導あらざるの實未だ承認ざるし能は
ざりしなり
露國の威名に加へられたる此偏裨に對して獨
逸は果して如何の醫藥を之に與へんと欲する
ものなりや大山必ず聲懾ざるべしとの事を豫
言したる獨逸の神託に對しては獨逸其頗る不
精確なりし豫表を如何にして辯解せんとする
や問題の此一面を審理する亦一の趣味ある研究
ならずとせずナチオナル・ツアイシングの
様に觸れて獨逸政府の見解を聲明するものな

るのみば我等既に之を知る處を以つてか同所
聞の言評には我等獨逸以府の意見に對する
同一の重量をいふみどを得べし間新聞の報す
る所は其意義に於て即ち曰く勿論英國は利せ
ざるベラス^スの如く大なる帝國の如く頓
ち帝國は彼の最南たる日本如此の堅破する所
となり丁るものにわざ明年英國は更に其大
軍を集めべく一千九百五年に於ける戰役の結果
は頗る其狀を異にするものあるべし然り必テ
頗る其狀を異にせんと云々然るもクロバトキ
ン或は過誤に陥るとわらんを恐れナチオナル
ルツ・アイツング此軍隊の執るべれ止當なる
進軍線路を指定し即曰く此軍は第^一軍團斯^テ徳
よりして韓國に進ひベシと此軍をの院に開闢
せる臺中に駆入し來るも日本軍は勿論之が口
を離して其細を緊縮するとなかるべからぬ此
新軍隊は即ち道路なき殆ど通すべからず土地
を經供給途絶えたる地方を超えて曾て存する
ふざなき交通線路を以難せんが爲め更に云々^シ
くにして此露國軍隊は之が獨逸思想の鼓吹を
に堪へたる日本兵存せざる半島に向け其進軍
を行はんとするものなりナチオナルツ・アイツ
ングの稱する所ひづればしむれば即ち斯^テの如
くにして此露國軍隊は之が獨逸思想の鼓吹を
受け猛然釜山の漁港より海上に渡り以て水中